

授業科目名 <英訳>	インド洋世界論 Studies on the Indian Ocean World				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 稲葉 穰					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
文献研究は、地域研究においてフィールドワークと並んで重要な作業である。この授業では16世紀以降の南アジアに関する文献資料（ペルシア語あるいは英語）を読解することを通じ、文化交流と文化変容のあり方を考察する（なお、この講義はグローバル地域研究専攻南アジアインド洋世界論講座の授業である。）											
<b>[到達目標]</b>											
近世近代環インド洋世界に関連する一次資料の講読を通じて、文献研究とフィールドワークをどのように結びつけるのか、各自の研究テーマに即した方法を学ぶ。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
イギリスによるインド支配の成立はある意味でインドとその周縁部からなる南アジアの近代の幕を上げることとなったが、19世紀初めにブハラとアフガニスタンに使節として赴いたイギリス人外交官アレクサンダー・バーンズの残した記録、および同時期にアフガニスタンに在住し、スパイとしても活動したチャールズ・マッソンの残した記録を会読し、近代ヨーロッパのアジア観を探ると共に、南アジアと中央アジアのフロンティアがどのように認識されていたのかを考察する、この点は今も続くアフガン内戦の背景を理解するためにも不可欠な事柄である。											
<b>[履修要件]</b>											
インド文化、イスラム文化に関する基本的な知識を有していること。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
出席者にはテキストの訳読と原稿作成を求め、それによって評価する。進度次第で、期末にレポートを課す。											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
（参考書） 会読用テキストについては、授業時にコピーとして配布する。											
<b>[授業外学習（予習・復習）等]</b>											
授業中に指示する											
（その他（オフィスアワー等））											
内容としてはテキスト会読と、その内容に関する解説を主眼とするため、出席者には該当箇所を十分予習してくることが求められる。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											